

User's Voice))))

マーカユニットやプレス装置（エア抜きローラ1組、プレスローラ1組）を標準装備し、いずれもオペレータの作業負担軽減と生産効率アップに大きく貢献する。

しかも同社の場合、機械の高さや羽根の長さなど、細かな点で独自仕様としているのも大きな特徴だ。これは、工場内の既存の機械との互換性、標準化を図るのが目的だが、こうしたスタールを知り尽くした細かな配慮には、じつは専務の経歴が大きく影響している。

高橋春雄専務は大学卒業後、2年間ドイツへ留学。この間スタール社、ポラー社などのメーカーで技術的なことを学び、さらに当地の製本会社で印刷から製本について、一通りの流れを実際に経験するという得がたい体験をした。

この時の人脈は同社の技術情報の取得に現在も大きな役割を果たし、その知識は単に与えられた機械を使うだけでなく、同社がもっとも使いやすい仕様を注文する際のベースともなっているわけだ。

最も、スタール機が仕様を少しだけ変えれば古い機械と最新の機械とでかなりの互換性があるというのは、もともと長期にわたって使えるよう堅牢にできていることと、昔から長期にわたって変える必要のないほど先進の機構を採用してきたという証拠でもある。

「今回デジタル化して少し変わりましたが、それまではプラグの形まできちんと互換性がありました」（高橋春雄専務）

折り機をスタールに統一しつつ、さまざまな機種を導入し、その互換性を生かして仕事ごとに組み合わせを変え、

フレキシブルに仕事をこなす。これが、品質を守るため、基本的には日勤のみの業務シフトでそれなりの生産量上げるための工夫の一つといえるだろう。

もちろん同社では、ポラー断裁機についても高く評価している。その精度はもちろん、耐久性も高く、20年前の機械が2台まだ現役として稼働しているほどだ。精度の高い断裁ができてこそ、折りの作業が楽になるのだという。



居並ぶポラー断裁機のなかには、20年選手もいるという

メーリング事業は、次代の柱となるか

同社の業務の柱に、ダイレクトメール制作およびメーリング事業がある。この事業が本格的にスタートしたのは平成2年、外国製のメーリングマシン2台を導入してからのことである。

このマシンを使って確立したのが、P.A.G.（Perforation and Glueing）という同社独自の情報処理サービスだ。Perforation＝ミシン目とGlueing＝のり付けを使い、封筒と内容物が一体となったダイレクトメール、ユニークな形状と機能を持つマーケティングツールなどを開発し、自社で営業まで行おうという試みだ。

そのため、営業から企画、印刷、納品まで行う株式会社東洋バッグという別会社を設立し、成果も上がりつつある。実際、2台のメーリングマシンのうち1台はすでに償却が終わって手放してしまったほど。

今後、営業力をさらに強化して売り込みを図っていく予定だが、メーリングマシンについては、今後入替えも導入も考えていないという。



日本に数台しかないというスタールT66-16。この16枚羽根機の存在が、同社の高い技術力を物語る

「もう機械の仕組みも分かりましたし、分かってみればあそこまで大きな機械は必要ありません。あの機械で得たノウハウをフィードバックすれば、既存の紙折り機でもできますし、そのほうがコストも下げられる」（高橋春雄専務）

そのためには、スタールには、今後さらに進歩してほしいという。

このP.A.G.に見られるように、同社は新しい技術、他社のできない仕事の開発、導入にきわめて積極的だ。

こうした姿勢の現れの一つが、16枚羽根を持つT66-16であり、四六全判の折りが可能なT112なのである。このT112紙折り機もジャバラ折りの国内1号機であった。



同社の高い技術力、開発力を証明する、多様な製品群

高齢化への歯止めとして 若者にも魅力ある職場を目指す

同社では、設備などの生産体制は、現在の新工場への移転以来、今日までに当面必要な陣容を整えた。ただ、他社との差別化が可能な新しい機械が世に出れば、その時点で積極的に対応していくという。

高橋社長は「新しい機械を入れると、新しい仕事が入ってくる」と語る。もちろん、これは一面真実である。ただ、それを現実のものとし、自社の強みとして育てるためには、その機械を使いこなすだけの技術力が必要だ。

同社の場合、長年培った技術力に加え、高橋春雄専務のドイツ留学経験が大きい。

こうした技術があればこそ、常に最新の機械を導入し、日本の製本業界の新しい時代を切り開くパイオニアとなってきたのだ。

「当社は、A倍からミニサイズまで、どんなサイズの折りにも対応できます。四六全判を縦2つに折り、それから観音に折れるほど大きな機械は、当社を含め日本に数台しかありません。また、輪転折り出しで巻3つにして定型封筒に入れるDM折りなど、どんな折りでも大量に短納期でこなせます。

しかも、普通の観音折りなどなら短納期、大ロットにも十分対応できると



阪神高速東大阪線・高井田インター近くにある、東大阪工場

いったところが当社の特徴でしょうか」

高橋春雄専務はこう述べたあとで、問題点があるとすれば、包装など人手のかかる部分の省力化を含めた、工場全体のさらなる効率化だという。

また高橋克己常務は、スタール独自の生産管理システムができれば、競争原理の導入と公平な人事効果のためにもぜひ活用したいと語った。

「社員の平均年齢が40歳を超えていますから、これからは若い人にも魅力ある職場づくりを進めていかなければならないと思っています」（高橋克己常務）

製本業界全体の課題である高齢化に対処するため、同社が特殊折りなどの技術的な面で発揮してきた先進性を、この分野でも発揮することを期待したい。

【東洋紙工株式会社】

〒530-0043 大阪市北区天満4-14-9（本社）
TEL (06) 6351-7747
〒577-0063 東大阪市川俣1-6-20（工場）
TEL (06) 6789-1212

●事業内容 総合印刷、折りおよび製本（中とし）、ダイレクトメール制作、メーリング事業

●設立 昭和27年2月

●資本金 1,000万円

●代表者 代表取締役社長 高橋康雄氏